

共生・公正・創造

**ユニオン・EYE**<http://www1a.biglobe.ne.jp/jrtu-EWU>ジェイアール東日本労働組合
〒108-0014 東京都港区芝5丁目33番36号
TEL(NTT)03-3453-2107 (JR)057-2290
発行者/今井 伸 編集者/平 憲治**“ テロリストに乗っ取られたJR東日本の真実特別版 ”**

『月刊現代 - 私はなぜ「タブー」に挑んだのか - 』

第6回

『週刊現代』に続き『月刊現代』もJR東日本の革マル浸透問題を告発した。本紙は筆者の了解を得て、驚くべきこの事実をシリーズで紹介することとした。

松田氏「松崎委員長と私だけじゃなくて、皆さん方と会社全員が、経営陣がもっと癒着していいはずであります」(東労組ユニオンスクールにて)

しかし、今となっては、JR東労組との癒着がJR内外から公然と批判される大塚陸毅会長(64歳)や清野智社長(59歳)も、JR東日本発足当初は、松崎に支配された異常な労使関係に、危機感を覚えていたという。

「90年のことです。仙台のメトロポリタンホテルに当時の常務だった大塚さんと、人事部長だった清野さんら人事・勤労関係の幹部が極秘に集まり、今後の労政について話し合ったことがありました。その席で大塚さんは『せめて仙台(支社)だけでも、我々が望む(松崎に支配されない)労使関係を維持してほしい』と話していました。そして(組合から革マル派を排除した)JR東海やJR西日本の労政に触れ、『あんな単純な手法は、JR東日本にとっては愚の骨頂だ。あの連中(革マル派)にはアメ玉を食わせ、時間を十分にかかけ、次第に牙がなくなるように対応し、遂には牙がなくなってしまう--というような遠大な計画が、JR東日本の革マル派戦略なんだ』と強調していました」(清野氏の元部下)

ところが91年9月、松田氏は、山形県「天童ホテル」で開かれたJR東労組「ユニオンスクール」で、松崎らJR東労組組合幹部の前で挨拶し、当時、労働組合からの徹底した革マル派排除に動いていたJR東海やJR西日本の労政を批判した上で、こう発言した。

《松崎委員長と私だけじゃなくて、皆さん方と会社全員が、経営陣がもっと癒着していいはずであります》